

令和3年10月14日

市政担当記者各位

第19回「花と緑のまちづくり賞」 受賞者決定について

花と緑によるまちづくり活動に顕著な功績があり、市民共働のまちづくりに積極的に取り組む団体を表彰する「花と緑のまちづくり賞」が決定しました。

審査にあたっては良好な環境づくりに加え、他の模範となる活動について、書類による予備審査、現地およびヒアリング調査を行い、令和3年7月1日の最終審査の結果、本年度の受賞団体が決定しました。

●「花と緑のまちづくり賞」について

- (1) 表彰対象
「都市緑化及び都市公園保全美化運動並びに花と緑のまちづくりの推進に功績のあったものに対する市長表彰」の「花と緑のまちづくり地域活動功労者」を受賞した団体のうち、活動を5年以上継続している団体。
- (2) 対象団体数
花づくりの活動団体、緑の保全管理団体合わせて130団体。
- (3) 審査
詳細は別紙のとおり
- (4) 受賞団体及び総評
別紙のとおり
- (5) 発表方法等
協会ホームページに掲載するとともに、受賞冊子を制作します。
- (6) 表彰式
日時 令和3年10月30日（土）10時
場所 福岡市植物園「一人一花サミット」会場

(問合せ先)
公益財団法人福岡市緑のまちづくり協会 みどり課企画推進係 (担当 倉橋・肥後谷)
TEL 092-822-5832 FAX 092-822-5848
電子メール mms@midorimachi.jp

● 受賞団体

別紙

野間大池公園花学校

活動場所	南区柳河内1丁目(野間大池公園) 446m ²
会員数	8名
結成	平成15年
活動頻度	2回/週(植替え…補植のみ、草取り…随時、水やり…植栽時のみ)
活動のきっかけ・目的	四季を通じて花を楽しめる公園にして、ごみの不法投棄を減らしたいと町内会を中心に活動を開始。 荒地だった植樹帯に町内会員や周辺住民で花を植えることで、公園を綺麗にするとともに、人の輪を広げ地域を明るくすることを目的に活動が続けている。

■評価された点 ～広い花壇を水やりなしでメンテナンス。宿根草や小花木をメインとしたイングリッシュガーデン～

地域の象徴である野間大池公園を周回する広大なボーダーガーデンに、宿根草、球根植物、小花木が9割に配置された多品種で構成された花壇です。剪定や花がら摘みなどの適切な手入れにより花の少ない時期でも見ごたえのある水準が保たれていること、調整池という地形の特性を活かし、植え付け時以外は水やりをしない管理方法などが高く評価されました。

また、花の名前のラベルを付ける、地元タウン誌や園芸HPへの情報提供、地域住民や他団体への苗や種の提供など、地域に向けた広がりのある活動を行っています。



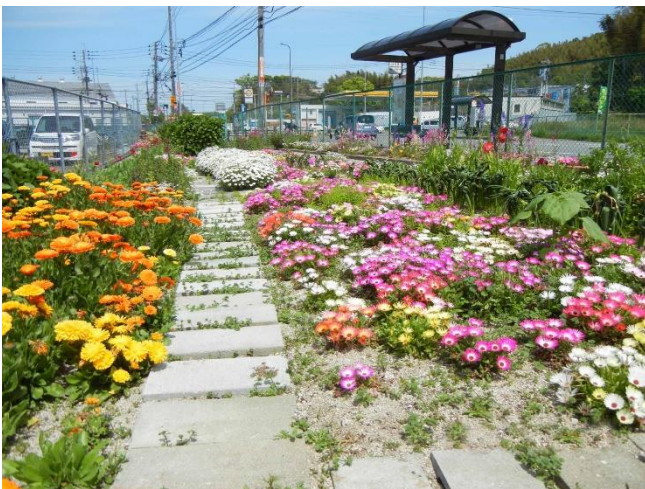
花そうかい

活動場所	博多区立花寺1丁目(育苗施設) 266㎡
会員数	30名
結成	平成16年
活動頻度	1回/月(植替え…2回/年、草取り…随時、水やり…近隣会員による担当制)
活動のきっかけ・目的	花博のボランティア講座の実習地だった博多区の立花寺リフレッシュ農園で、仲間約30人と「花そうかい」を設立。最初は花壇管理のみだったが、「花苗は高い、自分たちで育てよう」と、育苗ボランティア団体という今のスタイルになった。 近隣の人や車から楽しんでもらう花壇を整備するとともに、花壇ボランティア団体及び公的施設内花壇に向けて花苗を提供し、育苗技術が普及するよう活動を行っている。

■評価された点 ～福岡市における育苗ボランティア団体の先駆者～

年間15,000ポットほどを育苗し、自らの花壇に植えて地域の人に楽しんでもらうとともに、育てた苗は会員が所属している他の団体等に提供され、福岡市内のたくさんの花壇に植栽されています。育苗用に使った土や、撤去した植物で作った腐葉土を花壇で再利用するなどの体制、育苗施設の管理体制などが長年の経験により整っている点が高く評価されました。

また、育苗体験会の開催、活動日における体験参加の積極的な受け入れなどにより、多くの人に育苗を学ぶ機会を提供している活動は、育苗技術の普及につながっています。



●入選団体



今福町フラワーメイト



桜ヶ丘公園桜会



みどりが丘落葉リサイクルの会



姪浜北住宅環境美化クラブ

●総 評

審査委員長 高宮 さやか

今年度は 2 団体が受賞されました。博多区立花寺の「花そうかい」は発足から 20 年近く、毎シーズン 4000 株前後を育苗して周辺 20 団体に供給する体制を構築して地域花壇を支える太い根となっており、圃場の花壇も沿道から楽しめるようになっていました。また「野間大池公園花学校」は調整池内という地の利（水の利）を活かして無灌水管管理を実現され、花の名札を読むだけでも勉強になる見ごたえのある宿根草花壇でした。

今回入賞・入選された 6 団体の活動からは「持続性」という課題が見えてきました。住民の高齢化は避けられず、だからこそ次世代にどのようにつないでいくかという模索が始まっています。子供会との協働、小学校との連携の他、花壇の会員がミニシルバーセンターとしても活動する、通りがかりの顔見知りになんとか声をかけて一緒に作業、などです。また省力化のためにウッドチップを敷き詰めて灌水・除草手間減に成功、無灌水を前提に花の種類を選抜する、雑木林の落ち葉を堆肥にして保水力のある花壇ができるといった、いずれも是非参考にしていきたいアイデアとノウハウです。今回の審査を終えて、草の根とはこんなにも確かなものか—50 年 100 年と続く花とみどりの街づくりはもう始まっている、そう強く実感した次第です。



● 審 査

	工程	内容	日程	対象団体数
1	審査対象団体選出	実施要領に基づき選出	—	130 団体
2	事務局一次審査	書類審査	令和 3 年 4 月 27 日	130 団体→ 6 団体
3	事務局調査	現地調査、ヒアリング調査	令和 3 年 5 月～6 月	6 団体
4	審査委員審査	書類審査、現地審査	令和 3 年 7 月 1 日	6 団体→ 2 団体

- 【審査委員】
- ・ 有限会社グリーンハウスベル 代表取締役 鐘ヶ江 奉一氏
 - ・ 西日本短期大学 准教授 高宮 さやか氏（委員長）
 - ・ 一般社団法人ソーシャルグリーンデザイン協会 理事 神木 直哉氏
 - ・ 福岡市住宅都市局花とみどりのまち推進部 一人一花推進課長
 - ・ 公益財団法人福岡市緑のまちづくり協会 みどり課長

